

8-4-2 生産性向上WG

1. WG 活動目的

建設事業全体の生産性向上を目指したDX推進に向けた国交省によるBIM/CIM原則適用に基づきi-Construction（建設生産性改革）を推進する。

特に、BIM/CIMを3次元情報連携におけるマネジメントツールとして、また国際標準としての活用など、これからの建設生産・管理システムの構築に向けた産学官一体となった取り組み検討を実施する。

- (1) BIM/CIM活用に関する技術動向等の情報共有
- (2) ICTおよびBIM/CIM活用促進
- (3) 会員企業の技術者教育の推進

2. 主な活動の記録

BIM/CIM活用促進に向けた委員会活動等を通じ、要領基準類の整備・更新協力及び関連情報の共有を図った。

- (1) 生産性向上WGの開催
 - a) 令和4年度の実施体制、中期活動報告(R3)及び活動計画(R4)、国交省BIM/CIM関連委員会及び東京大学寄付講座・協調領域検討会の対応状況、DX特別推進本部の活動状況等を共有。
 - b) 原則適用にかかる基本方針や関係基準類の改定素案の内容確認及び各種意見照会等について対面活動を避け、WEB及びメール審議等により情報共有し、対応した。
 - c) 各種委員会情報はDCBを活用し、適宜、情報共有を図った。
- (2) BIM/CIM関連の対外活動への参加
 - a) 令和4年度開催のBIM/CIM推進委員会(第8回R4/8/30、第9回R5/1/19)及び原則適用にかかるPTへの委員派遣・検討支援を実施した。
 - b) 令和5年度に施行されるBIM/CIM原則適用に向けた基本方針にかかる審議に参画し、業務における当面の活用目的について具体化した。
- (3) i-Construction、ICT導入推進に向けた活動
 - a) ICT導入協議会への参加(第15回R4/7/28、第16回R5/3/20)。関係基準類の改訂情報及び

ICT施工における各種ユースケースの共有。

- b) コンクリート生産性向上検討協議会への参加(第12回R5/2/9)。関連する要素技術の標準化検討状況について情報共有した。
- (4) 他団体等との関連技術情報の共有
 - a) i-Constructionシステム学東大寄付講座
 - ① 協調領域検討会 設立記念シンポジウムに登壇(設計WG)。過年度の取組を概要報告した。
 - ② 第2回協調領域シンポジウムに登壇(設計WG)。今後の活動計画、3つの業務領域にかかるSWG(河川、道路、橋梁下部工)を設置し、分野固有及び共通の協調領域を検討し将来像を具体化した。
 - ③ 第1回協調領域セミナーの開催(当WG主催、オンラインR5/4/13)。協調領域検討会での成果報告として、協会会員への情報共有を通じた関連技術にかかる人材育成等を目的とし、今後の業務の効率化・高度化を啓発した。
 - b) bSI、bSJ
 - ① 第12回国際土木委員会に専門委員として委員を派遣。bSIが主導する国際サミット関連の情報やIFCトンネル等の整備状況を共有した。
 - c) 日本橋梁建設協会
 - ① 鋼橋の設計～製作段階におけるデータ連携を推進することにより、橋梁建設事業における生産性の向上及び建設生産・管理システムの更なる改善を促進することを共同宣言した。(R5/4/18)
 - ② BIM/CIM推進委員会傘下の原則適用PT(橋梁製作システムPT)での検討内容を具体化。両団体間で覚書を締結。検討体制を共有した。
- ### 3. 次年度の活動について
- 国土交通省が推進するBIM/CIMを活用したデータ連携・共有による受発注者の生産性向上を共に目指す。
- 東京大学寄付講座 協調領域検討については、検討範囲の拡大に伴い、実施体制の強化を図る必要がある。
- (生産性向上WG WG長 加藤 雅彦)